

鳥取県岩美郡岩美町

いわみ

岩美町内遺跡発掘調査報告書IV

お ばたけ
小 畑 古 墳 群

 鳥取大学附属図書館



0050294131

1999.3

岩美町教育委員会

0.2

a

))



序 文

本町は鳥取県の最東端、兵庫県との県境に位置する人口約15,000人の町です。山陰海岸国立公園・名勝天然記念物に指定された浦富海岸、国指定天然記念物のカキツバタ群落などとともに、原始、古代遺跡も多く、歴史豊かな風土と自然に恵まれた環境にあります。

このようなすばらしい風景や環境を保存し、歴史・自然体験の場として活用していくことが、次代を担う青少年の育成にとっても重要なことでもあります。

今回発掘調査した小畑古墳群は本町大谷に位置し、建設省中国地方建設局鳥取工事事務所による一般国道9号駟馳山バイパス建設工事との調整を図るため、試掘調査を実施したものです。

小畑古墳群は昭和54年度に国道178号線改修に伴い、第8号墳を発掘調査による記録保存を行った経過があります。また、小畑古墳群中最大の第1号墳は「穴観音」と呼ばれ、因幡地方最大級の石室を持つ古墳です。

試掘調査が完了し、ここに簡単ながら一書をもって結果をご報告申し上げ、みなさまのご高覧に供したいと存じます。

最後に、現場で調査に携わっていただいた皆様、ご協力、ご指導いただいた多くの方々や関係機関に心より深く感謝申し上げます。

平成11年3月

岩美町教育委員会

教育長 大黒 啓 之

岩美町教育委員会
大黒 啓 之 謹 啓

例 言

1. 本書は、平成10年度に岩美町教育委員会が、国庫及び県費補助金を得て実施した岩美町内遺跡発掘調査（小畑古墳群^{おぼたけこふんぐん}）の報告書IVである。
2. 本遺跡の発掘調査は、建設省中国地方建設局鳥取工事事務所による一般国道9号駟馳山バイパス建設工事に伴う試掘調査であり、調査の対象となった地域は本町字大谷字小平野である。
3. 地形図（第1図）は、建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図の一部を利用した。
4. 本書で使用した方位は、地形図（第2図）は真北で、レベルは海拔標高である。
5. 出土遺物の整理及び本書の執筆・編集は中島伸二が行った。
6. 出土遺物、実測図等は岩美町教育委員会が保管している。
7. 調査にあたり、下記の機関及び諸氏にご指導及びご協力をいただいた。ここに記して謝意を表す。

鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、建設省中国地方建設局鳥取工事事務所、土地所有者の方々、西村昭次郎、松本美佐子

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の結果	4
1. 概要	4
2. 調査の結果	4
3. まとめ	9

挿図目次

第1図 岩美町遺跡分布図	3
第2図 小畑古墳群周辺トレンチ位置図	5～6
第3図 小畑古墳群出土遺物実測図 1	7
第4図 小畑古墳群出土遺物実測図 2	8

図版目次

図版1 小畑古墳群全景・第4トレンチ
図版2 第13トレンチ・第14トレンチ・第15トレンチ
図版3 第16トレンチ・出土遺物
図版4 出土遺物

第1章 発掘調査の経緯

平成10年5月、一般国道9号駒馳山バイパス建設工事と埋蔵文化財の保護についての協議が鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、建設省中国地方建設局鳥取工事事務所、鳥取県道路課、福部村教育委員会、岩美町教育委員会の関係機関が出席して行われた。この時、埋蔵文化財と工事との調整を円滑に進めるべく各関係機関が十分に連携していくよう話し合いがされた。

平成10年8月には建設省中国地方建設局鳥取工事事務所より計画路線内に埋蔵文化財の有無についての照会があったことを受けて、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターとともに現地踏査を行ったところ小畑古墳群の数基が工事範囲内に確認された。

このような状況を経て、岩美町教育委員会では鳥取県教育委員会文化課・鳥取県埋蔵文化財センターの指導により国・県の補助金を受けて発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は10月下旬から着手した。トレンチによる試掘調査を実施したところ、古墳の周溝等の遺構が確認された。

整理作業は、平成10年12月から開始し、平成11年3月に終了した。

第2章 遺跡の位置と環境

岩美町は、鳥取県の最も東側、兵庫県との県境に位置し、北は日本海に面している。面積は122.37km²、人口は14,742人（平成11年3月1日現在）である。小畑古墳群は大谷の集落の南西約0.5kmに位置している。

中国産地から北西方向に伸びるいくつかの支脈のうち1本は、日本海へ突き出し、その先端に標高314mの休火山である駒馳山^{しちやま}がそびえる。小畑古墳群は駒馳山の東麓に位置する。古墳群の東方は潟湖を埋め立てて大谷^{おおたに}平野が、東西2.5km、南北1kmにわたって開ける。北方は潟湖をつくった小砂丘が駒馳山裾から北東方向にのびており、その北側に日本海が広がる。

本町において、先人が最初の生活の痕跡を残した遺跡としては、蒲生川^{がもう}最上流域にある鳥越^{とりごえ}集落付近で縄文土器が採取されている。この他、蒲生小学校の裏側の丘陵では、平成2年度に行われた山ノ神^{やまのかみ}5号墳発掘調査の際、周辺や同墳築造前の旧表土中より、縄文時代前期にまで遡りうる土器片や石鏃・石斧も出土している。

弥生時代に入ると、蒲生川下流域の新井集落^{にい}辺りが本町地域の中心であったと考えられ、丘陵より流水文銅鐸が出土した上屋敷^{かみやしき}遺跡や蒲生川川底より弥生時代中・後期の土器や石製品が出土した新井遺跡が所在する。この新井遺跡は、国道9号線の通過する丘陵突端部の山裾に位置しており、河川改修によって水没してしまったものである。

古墳時代になると、弥生時代に展開した沖積平野の生産基盤に加え、山間部の開拓も進み、

町内各地に古墳の造営がみられる。現在、約440基の古墳が町内に確認されている。その中でも、家形石棺を有する古墳が3基確認されている^{たかのぎか}高野坂古墳群や砂丘地に造営された^{うらどめ}浦富古墳群など特色のあるものが多い。

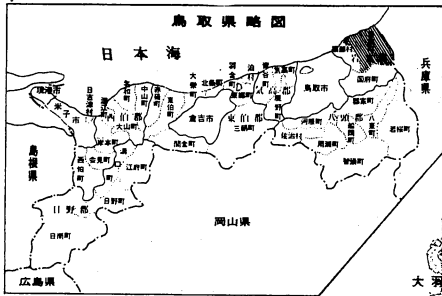
古墳時代終末期より奈良時代に入っても依然として古墳の造営は続くが、その中には有力な氏族集団が建立したと思われる^{いわい}岩井廃寺がその存在を知られている。岩井廃寺は、白鳳時代後期の法起寺式の伽藍配置をとったものと考えられている。また、7世紀末には銅が産出されていた小田川上流の^{あらかね}荒金集落付近に位置する^{ひろにわ}広庭遺跡では、発掘調査により規格性をもった掘立柱建物群が検出されている。南北朝に入ると、山名氏が因幡支配の戦略的拠点とするため^{ふたがみやまじょう}二上山城を築き、戦国期まで機能を果たしていた。この時期には、町内の至る所に城砦跡が築かれている。

大岩地区においては、いくつかの古墳群が点在しているが、小畑古墳群はそのうちの1群である。

木山竹治の『因但二国に於ける古墳の調査』に、小畑古墳4基の石室略測図が示されており、ともに狭長な平面形の横穴式石室であったことがわかる。これらの石室は片袖式ないし無袖式で、天井部に特色がある。すなわち、天井石までの高さが天井中央部に位置する石だけ、奥側と入口側の石より1段高くなるように架けられている。このような天井はいわゆる^{なかだか}中高天井と俗称され^{いなば}東部因幡地方では通有の形式であり、岩美町内で広く認められている。

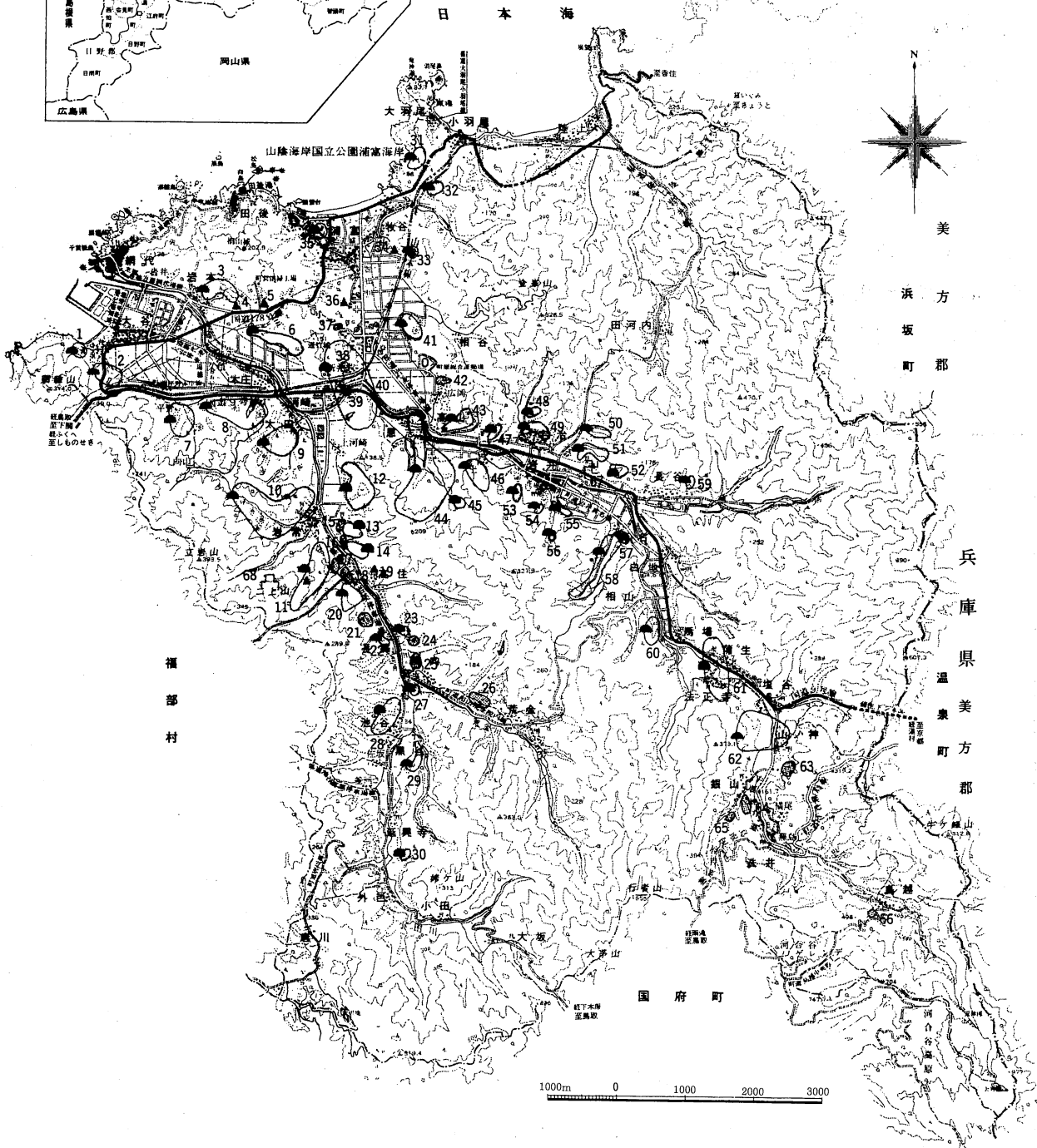
昭和51年に実施した分布調査では、当時、内部構造が不明な5号墳を除き、小畑古墳群のいずれもが横穴式石室を主体とする円墳であるとされている。

小畑1号墳については「^{あなかんのん}穴観音」と呼ばれ、県下で最長の横穴式石室を主体とする円墳である。また、小畑8号墳においては国道178号線の改修に伴い、昭和54年度に発掘調査が行われている。



岩美町全図

面積 122.26km²



- | | | | | |
|--------------|-------------|---------------|-----------------|-------------|
| 1. 弥長古墳 | 15. 宮の前遺跡 | 29. 池谷粉山古墳群 | 43. 高山上ノ山古墳群 | 57. 真名遺跡 |
| 2. 小畑古墳群 | 16. 福石遺跡 | 30. 延興寺城山古墳 | 44. 恩志古墳群 | 58. 真名古墳群 |
| 3. 岩本古墳群 | 17. 上太夫谷遺跡 | 31. 熊井古墳群 | 45. 恩志奥の谷古墳群 | 59. 長谷聖塚古墳群 |
| 4. 岩本横穴墓群 | 18. 上ミツエ遺跡 | 32. 牧谷横若古墳群 | 46. 坂上古墳群 | 60. 馬場古墳群 |
| 5. 坊谷横穴墓群 | 19. 柿ヶ谷横穴墓 | 33. 牧谷下竹類古墳 | 47. 恩志寺山古墳群 | 61. 蒲生古墳群 |
| 6. 浦富日ヶ崎古墳群 | 20. 高住古墳群 | 34. 牧谷横穴墓群 | 48. 宇治姥ヶ谷古墳群 | 62. 山ノ神古墳群 |
| 7. 平野古墳群 | 21. 東森谷遺跡 | 35. 浦富古墳群 | 49. 宇治宮下屋敷古墳群 | 63. 洗井藤助谷遺跡 |
| 8. 本庄古墳群 | 22. 長郷古墳群 | 36. 岩美病院裏横穴墓群 | 50. 宇治市浜衛谷古墳群 | 64. 銀山真教寺遺跡 |
| 9. 太田古墳群 | 23. 長郷猪ノ谷古墳 | 37. 新井第1遺跡 | 51. 岩井宮ノ谷古墳群 | 65. 銀山女郎谷遺跡 |
| 10. 満願寺谷古墳群 | 24. 長郷遺跡 | 38. 上屋敷遺跡 | 52. 岩井大野古墳群 | 66. 鳥越沢尻遺跡 |
| 11. 高野坂古墳群 | 25. 院内岡畑遺跡 | 39. 新井遺跡 | 53. 岩井奥山古墳群 | 67. 岩井廃寺跡 |
| 12. 横座古墳群 | 26. 広庭遺跡 | 40. 新井古墳群 | 54. 岩井南塚谷古墳 | 68. 二上山城跡 |
| 13. 岩常猪ノ谷古墳群 | 27. 院内古墳群 | 41. 高山下猫山古墳群 | 55. 岩井荒神下古墳群 | |
| 14. 岩常城山古墳群 | 28. 池谷古墳群 | 42. 高山狭間遺跡 | 56. 岩井太郎右エ門谷古墳群 | |

第1図 岩美町遺跡分布図

第3章 調査の結果

1. 概要

今回調査した古墳群周辺は、標高1m～22mの山裾のなだらかな傾斜地で、畑地として開墾されているが、現在はそのほとんどが休耕のため原野となっている。この開墾が原因とみられ、古墳の墳丘のほとんどが削り取られ、石室が露出している。

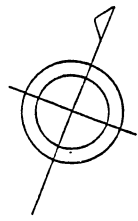
トレンチは当初調査対象地全体に設定したが、古墳以外の遺跡は確認されなかったため、後半は古墳群を中心にトレンチを設定し、古墳の規模と遺跡の範囲を確定した。

2. 調査の結果

トレンチを20本、(総面積270㎡)を設定し、掘り下げた結果は、下表のとおりである。

なお、第13～16トレンチの周溝は検出のみにとどめ、掘り下げは行っていない。

トレンチNo	規模(m)	面積(㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2 × 10	20	—	
2	2 × 10	20	—	弥生土器・須恵器
3	2 × 14	28	—	須恵器
4	2 × 5	10	周溝	
5	2 × 10	20	—	
6	2 × 5	10	—	
7	2 × 10	20	—	
8	2 × 5	10	—	
9	2 × 5	10	—	
10	2 × 5	10	—	
11	2 × 5	10	—	
12	2 × 5	10	—	
13	2 × 10	20	周溝	須恵器Po 2、Po 3、Po 4、Po 5、Po 6、Po12、Po13、Po19
14	2 × 10	20	周溝	
15	1 × 10	10	周溝・石室	須恵器Po 1、Po 7、Po 8、Po14、Po15、Po16、Po17、Po18 摺鉢(備前焼)Po11 陶磁器(椀)Po 9、Po10
16	1 × 10	10	周溝	
17	2 × 5	10	—	
18	2 × 5	10	—	
19	1 × 5	5	—	
20	1 × 7	7	—	

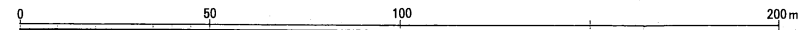


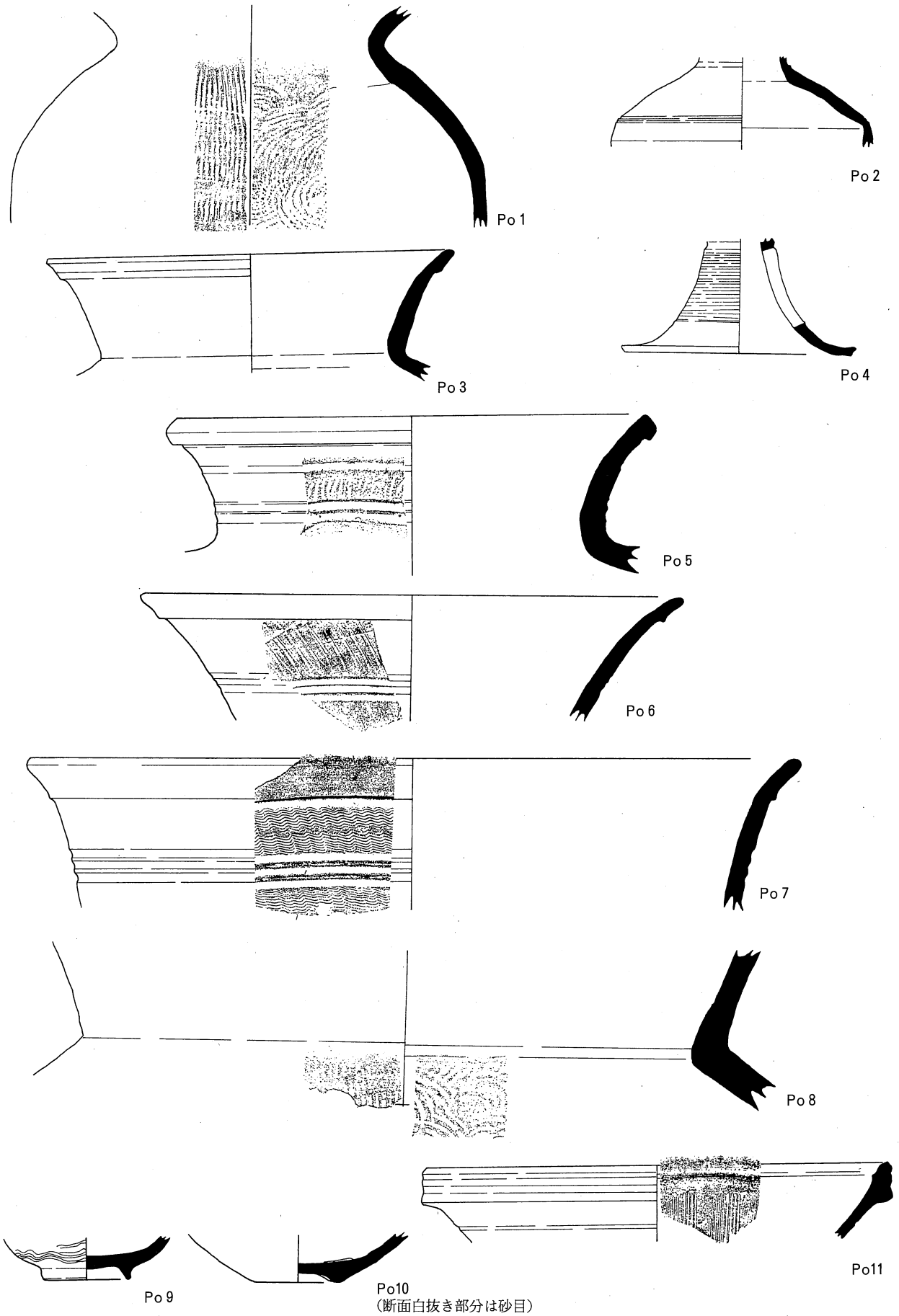
岩美町
大谷



第2図 小畑古墳群周辺トレンチ位置図

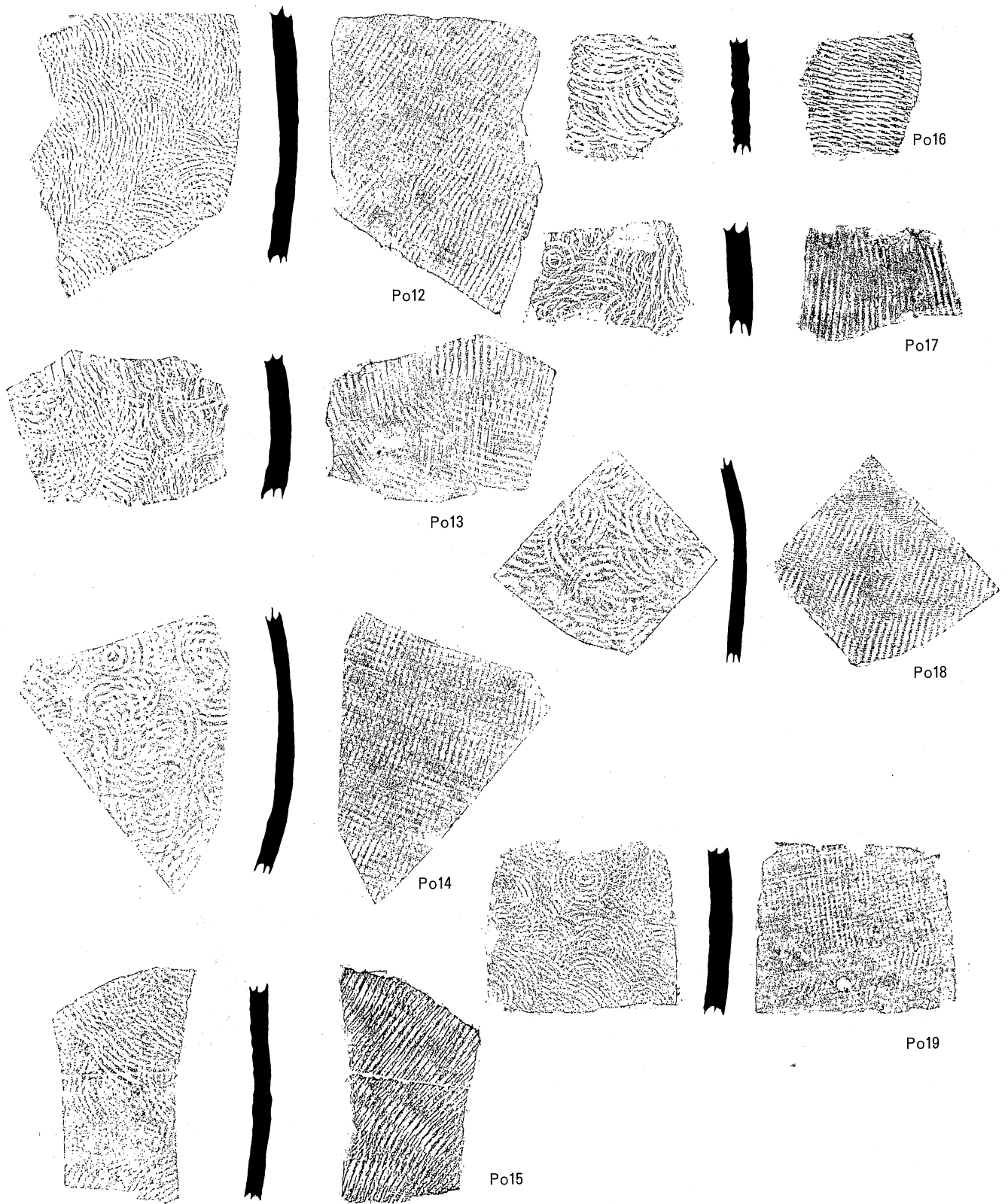
S=1:2,000





第3図 小畑古墳群出土遺物実測図1

S = 1 : 3
0 10cm



第4图 小畑古墳群出土遺物実測図2

3. ま と め

調査の結果3～7号墳の墳丘規模は下表のとおりである。

なお、トレンチによって周溝を確認した古墳は、4～7号墳である。

下表の墳丘規模は、3号墳を除き、周溝幅を含めた規模の計測である。3号墳の墳丘規模は現況の規模である。

また、3～7号墳の築造時期は出土須恵器から、陶邑編年のTK209～217型式（田辺昭三『須恵器大成』1981. 角川書店）に併行すると考えられる。また、備前焼の摺鉢（備前V期）が出土していることから、遺構は検出されていないが、当該地もしくはその近辺に16世紀の遺跡が存在する可能性もある。

古 墳 名	墳 丘 規 模	墳 形
小 畑 3 号 墳	直 径 約 25 m	円 形
小 畑 4 号 墳	直 径 約 28 m	円 形
小 畑 5 号 墳	直 径 約 20 m	円 形
小 畑 6 号 墳	直 径 約 20 m	円 形
小 畑 7 号 墳	直 径 約 20 m	円 形

報告書抄録

ふりがな	いわみちょうないせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	岩美町内遺跡発掘調査報告書 IV							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩美町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第19集							
編著者名	中島 伸二							
編集機関	岩美町教育委員会							
所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地 1							
発行年月日	西暦1999年 3月18日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
小畑 3号墳 小畑 4号墳 小畑 5号墳 小畑 6号墳 小畑 7号墳	鳥取県岩美郡 岩美町大字大谷 字小平野	31302		35° 33' 50" ~ 55"	134° 17' 40" ~ 50"	1998.10.19 ~ 1998.11.27	270㎡	一般国道9号 駈馳山バイパス 建設に伴う 試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
小畑 3号墳 小畑 4号墳 小畑 5号墳 小畑 6号墳 小畑 7号墳	墳墓	古墳時代	古墳5	須恵器				

小畑古墳群全景
(東から)



小畑古墳群全景
(南から)



第4トレンチ
(西から)



図版2

第13トレンチ
(北から)

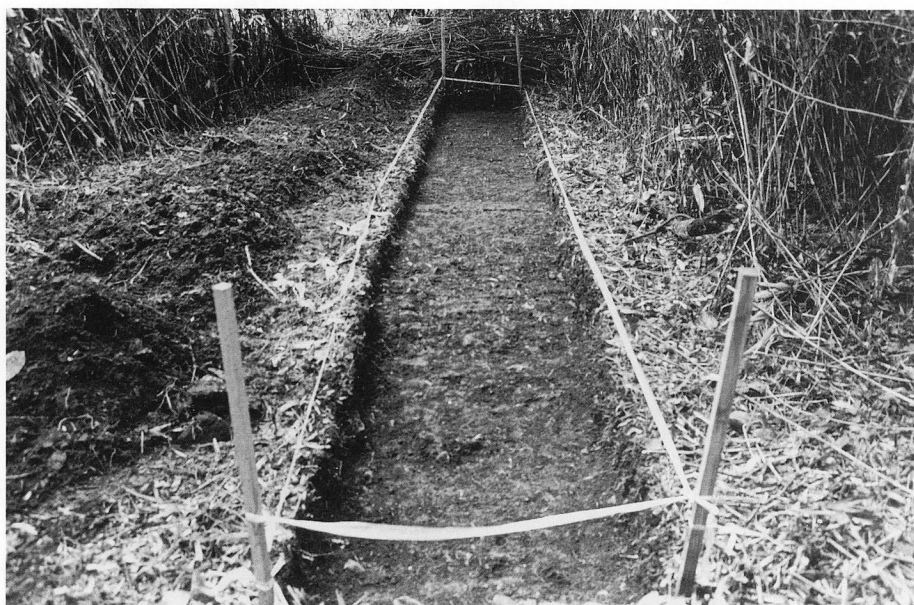


第14トレンチ
(東から)



第15トレンチ
(北から)



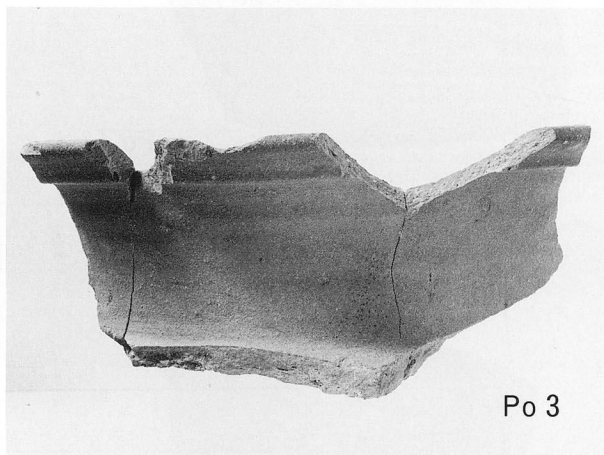


第16トレンチ
(東から)

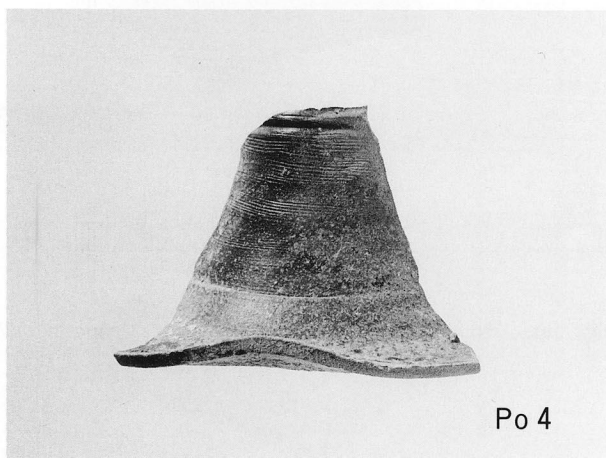
出土遺物



Po 1



Po 3



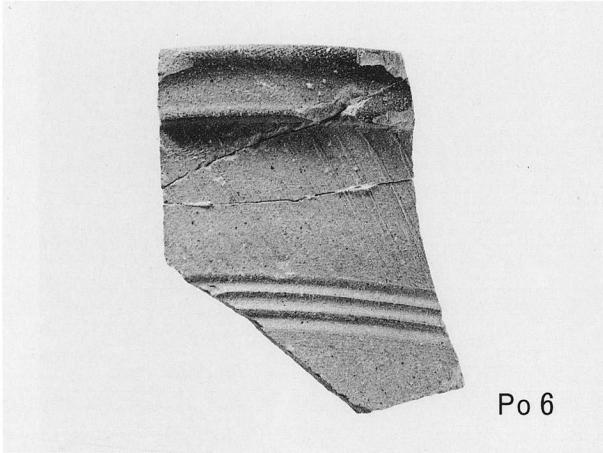
Po 4



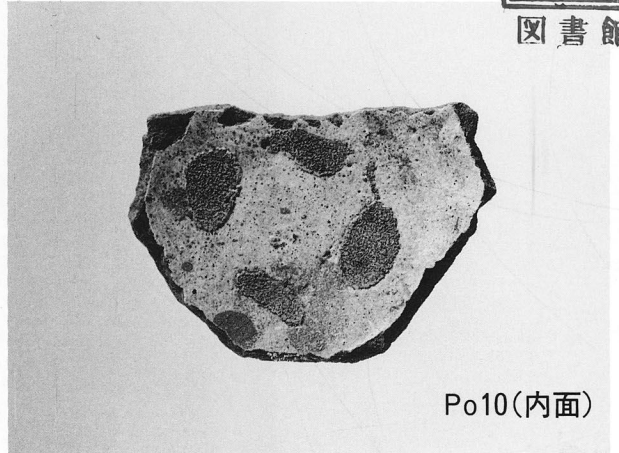
Po 5

210.2
Iwa
(19)

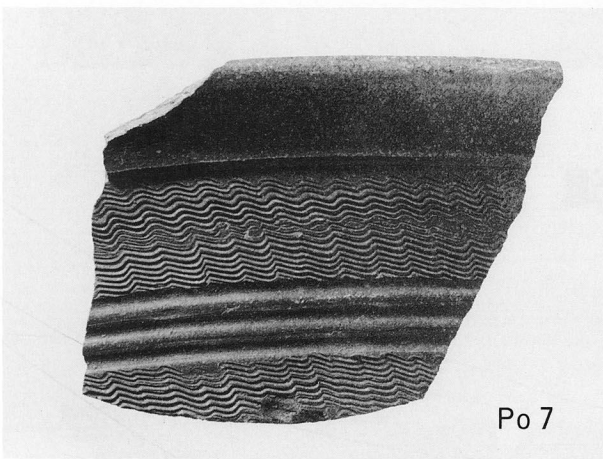
図書館



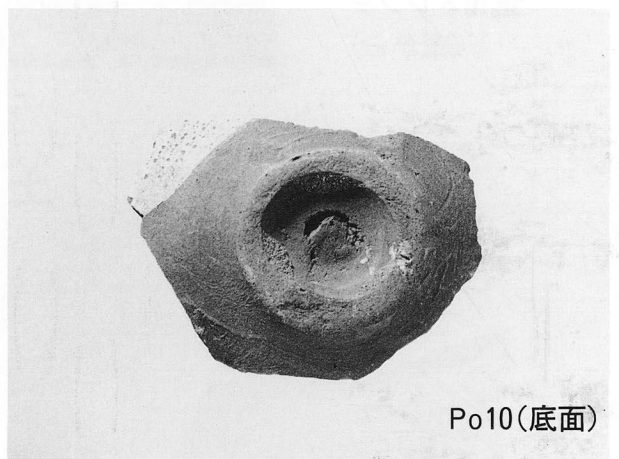
Po 6



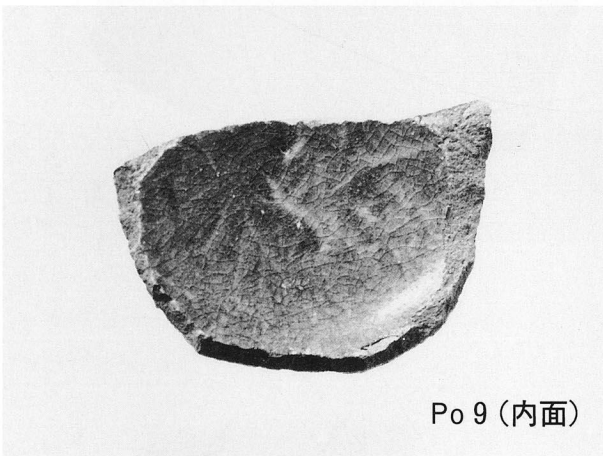
Po10(内面)



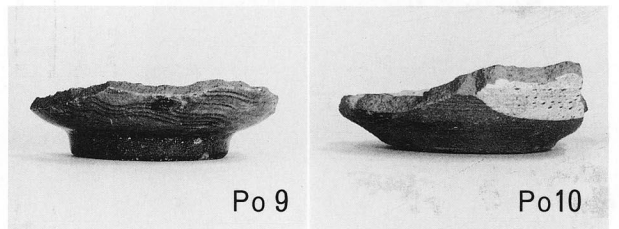
Po 7



Po10(底面)

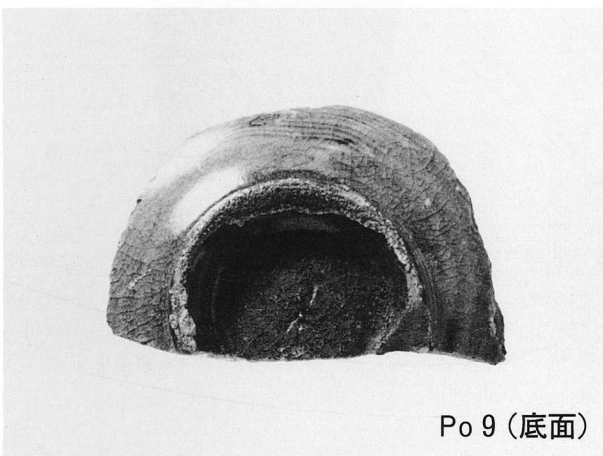


Po 9 (内面)

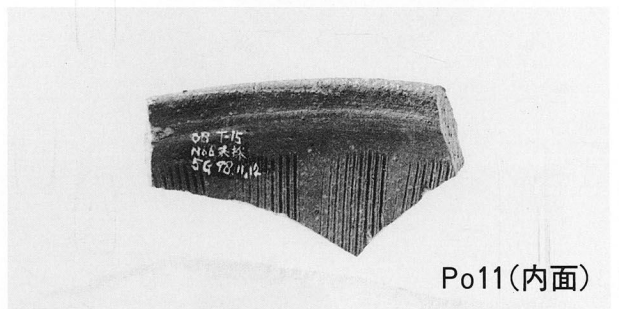


Po 9

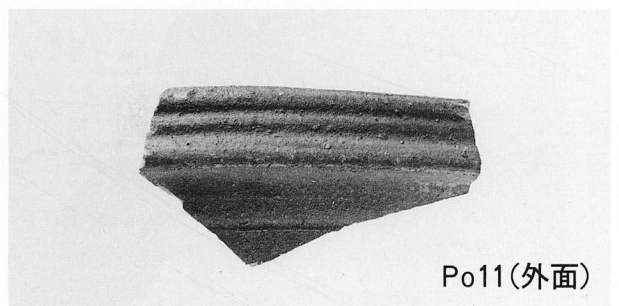
Po10



Po 9 (底面)



Po11(内面)



Po11(外面)

岩美町文化財調査報告書 第19集

岩美町内遺跡発掘調査報告書IV

平成11年3月15日 印刷

平成11年3月18日 発行

編集 岩美町教育委員会

発行 鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1

TEL (0857) 73-1301

印刷 日ノ丸印刷株式会社

鳥取県鳥取市寿町915番地

TEL (0857) 22-2248
